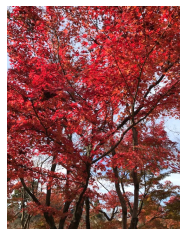
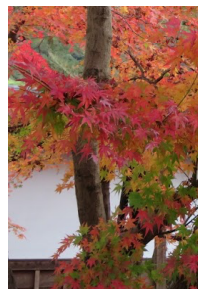
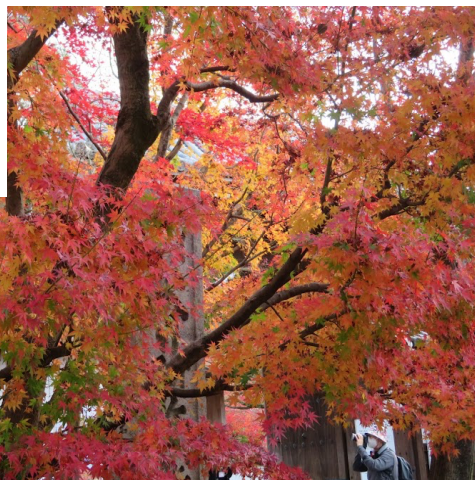


# 沙羅の樹文庫だより

NO. 193 (22年12月号)



22.12.3 永観堂の紅葉(殊に紅が美しかった)



## 十二月のうた

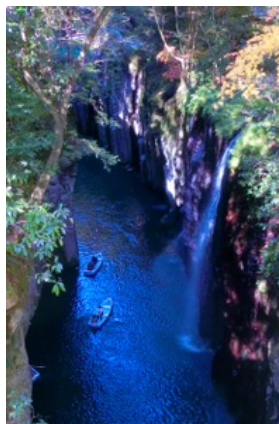
茨木のり子・詩

熊はもう眠りました  
 栗鼠もうつらうつら  
 土も樹木も  
 大きな休息に入りました

ふっと  
 思い出したように  
 声のない 子守唄  
 それは粉雪 ぼたん雪

師も走る  
 などと言って  
 人間だけが息つくひまなく  
 動きまわり

忙しさとひきかえに  
 大切なものを  
 ぼとぼと 落としてゆきます



**本年も3密を避け予約制で開館中です**

**12月17日(土)、18日(日)**

**♡クリスマスお楽しみ会、やります♡**

**18日(日) 10:30~12:00**

**3密にならないよう気をつけます。**

**♡親子で、もと大人も、ぜひぜひ♡**

手遊び・おはなし・紙芝居

&

楽しいプレゼント回し

(各自、500円程度のプレゼントをご用意ください)

**2023年1月14日(土)、15日(日)**

**2月18日(土)、19日(日)**

**→3月25日(土)、26日(日) 4週に変更**

**4月15日(土)、16日(日)**

**文庫開館時間は**

**土曜日 13:00~17:00**

**日曜日 10:00~15:00**

**子どものための読み聞かせ・おはなし会**

**日曜日 10:30~11:00**

**おはなし沙羅・おはなし勉強会**

**土曜日 10:30~12:30**

**〒413-0235 伊東市大室高原 7-122**

**☎0557-51-3737 (090-6039-3782)**

**♡沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫♡**

**〒413-0232 伊東市八幡野 924-1**

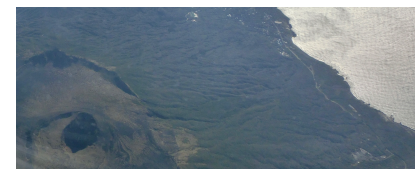
**☎0557-54-1910**

**開室日：日曜日 10:00~15:00**

文庫あれこれ◆コロナの感染者数、死者数の増大も、身に降り掛からねば、よそ事になってしまったような日々、師走も半ばを過ぎました。◆今日15日に来ました。伊豆の海は、蒼く穏やかで、心がスーッとします。大島も今日はくっきり近くに見えました。◆今頑張って文庫だよりを作り、明日は1日私用で神戸をトンボ帰ります。帰りが夜になるので、タクシーを頼もうと連絡したら、週末はグランパル公園のライトアップのお客で忙しいから、時間の約束はできないと言われました。伊豆高原にお客さんが戻って何よりですが…。◆右上の写真は、12月初め、京都駅構内のサンタさんとのツーショット。◆



左は、11月終わり、飛行機から撮った三原山火口。目玉のようなのが見えますね。◆今年も



予約制で開館しました。これに慣れた方々は翌月の予約をしてみたいらっしゃいますが、予約できず忙しさに追われる方の来館は随分と減りました(特に子ども)。ただ、スタッフからすると、このやり方も満更ではなく、来る方とのおしゃべりも楽しいです。予約なくてもいらっしゃる前に電話いただければ、と思います。◆今年も大人の本だけで235冊入りました。惹かれた本、心打たれた本、驚いた本、あったでしょうか。お一人お一人に伺ってみたい気がします。あと1年半余、皆さんの心の憩いの

松江の林さん宅窓辺のジュール・ベルヌ



お健やかに新年をお迎えください。

(西村)

# 『人形の旅立ち』の地から⑤～小泉八雲と松江～ 林 良子

「沙羅の樹だより」の読者の中には、小泉八雲の再話文学『怪談』に収められている「耳なし芳一」、「雪女」、「むじな」などを語る方がいらっしやることでしょう。

松江は、八雲が日本で最初に暮らした土地です。日本を体験し創作の原点となりました。

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は、1850年、ギリシャのレフカダ島生まれ。父はアイルランド人、母はギリシア人。2歳の時にダブリンに転居しますが、両親の離婚により大叔母に引き取られます。乳母からケルトの妖精物語を聞いたことは、後の八雲の素地をつくります。大叔母の家で、のっぺらぼうを見るという「むじな」体験もしています。16歳、左眼を失明。さらに大叔母が破産。無一文でアメリカへ。記者を生業とする中で、異文化や霊的な現象にひかれる八雲は、『古事記』を読み、博覧会で日本に触れて憧れを募らせ、1890年、松江の尋常中学の英語教師として赴任しました。

40歳、孤独だった八雲は、松江以降、没するまでの14年間、熊本、神戸、東京と移りながら、教師、学者、作家として飛躍を遂げます。

松江には、旧居が残り、記念館（館長は八雲のひ孫、小泉凡氏）、顕彰する八雲会もあります。

私も会員です。また、八雲の姿は、胸像をはじめ、街灯、羊羹やコーヒーの箱にも見ることが出来ます。おすすめは、夜、怪談の地を巡るゴーストツアー。ちゃんと、幽霊も出ますよ！

紀行文『日本の面影』は、世界に明治時代の日本の文化を紹介した名著といわれています。

す。その中の「神々の国の首都」で、八雲は、松江の朝の風景を、聴覚を研ぎ澄ませてスケッチしています。

さて、今も松江で親しまれている八雲ですが、松江に滞在したのは、わずか1年3か月、驚きです。八雲にとって、松江が格別な所となったのはなぜでしょう。

- ①松江で小泉セツと出会い家庭をもったこと
- ②セツが口伝でお話が語れる人だったこと
- ③出雲地方は神話の地。八雲が日本に対して描いていた、自然と一体となった信仰や風俗が、庶民の暮らしから感じられたこと
- ④友情を結んだ松江中学の教頭、西田千太郎が、献身的な通訳をし、出雲大社をはじめ、霊的な場所や庶民の日常を案内したことなどと私は考えています。

八雲の作品には、「雪女」や「水飴を買う女」に見られる母の深い愛情や、「耳なし芳一」のように恵まれない境遇の人々への慈愛のまなざしを感じる作品があります。



八雲の世界観を感じながら『怪談』や『日本の面影』の舞台を歩き、いつかは「雪女」や「耳なし芳一」を語りたと思っています。

松江市内の広場にある八雲の後ろ姿のレリーフ  
地球を半周した旅の一生でした。

.....原稿を書いた後、地元旅をしました。  
松江での八雲・1軒目は、大橋川という宍道湖の続きの川縁の旅館。2軒目は目の前が宍道湖。湖に下りる石段もあります。セツとの生活を始めた宿のようですが、未だに、場所が特定されていないらしいです。小路を隔てて、あっちかこっちかという程度ですけどね。記録が残っていないという、2軒目に興味があります。3軒目は、旧居として公開されています。それにしても、どこも、目の前に水があります！（林良子）

## 徒然なるままに.....(さ・ら)

11月下旬に宮崎&熊本、12月初旬に京都に行ってきました。♥3年で100泊♥（始めたら義務のように貫徹する連れ合いに乾杯!!）

★11月25日、熊本空港経由、レンタカーで一路60キロを高千穂峡へ。ひと、人、人の流れに沿って、30分歩き、絶景が見られるボート乗り場へ。着いてみれば乗るには4時間待ち。乗らずに戻り、天岩戸を見たいと天岩戸神社に立ち寄り。ガイドの禰宜さんの話に、アメノウズメミコトの踊りに賑やかにさんざめく神々と、それに心そぞろ岩戸から顔を出す天照大神の姿を想像して可笑しくなる。とにかく観光嫌いの相手では観たいところもスルーして。でも、宿で面白い本を、『天岩戸神話を歩く一高千穂から戸隠へ』（みやのゆきこ著 新評論2020）。帰って早速買っちゃいました。神話の世界が身近に広がりそう！

★26日は阿蘇へ。大観峰展望台から四方の山々を眺め（雄大）、今度は下って上って阿蘇火口へ。写真は、咄嗟の時のシェルター。火口を覗くとすごいが柵で近寄れない。60年近く前学生時代、連れ合いが来た時は柵はなかったとか。ここも、人人人。

.....193-2に続く



## 12月に入る子どもの本

### 絵本

『ぞうくんのさんぽ』(なかのひろたか作・絵  
福音館書店 1977) ID13837

『わたし、わすれものがおおいです』(くすのき  
しげのりさく のしさやかえ 東洋館出版 2022)  
ID13838

『ひとつのねがい』(はまだひろすけ作 しまだ  
しほ絵 理論社 2013) ID13839

『おやすみなさい フランシス』(ラッセル・ホ  
ーバン作 まつおかきょうこ訳 福音館書店  
1966) ID13840

『よるのあいだに…みんなをささえるはたらく人  
たち』(ポリー・フェイバー文 BL 出版 2022)  
ID13841

『大きな大きな大きな足あと-もし全人類が一  
人の超巨人だったら』(ロブとトム・シアーズ著  
きたむらさとし訳 創元社 2022) ID13842

### 読みもの

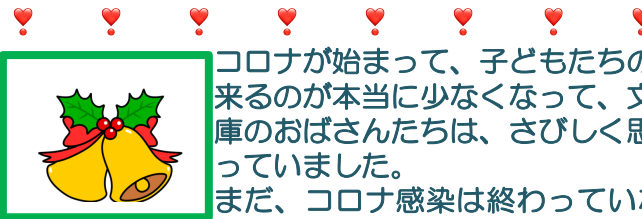
『たぶんみんなは知らないこと』(福田隆浩著  
講談社 2022) ID13844

『ぼくたちはまだ出逢っていない』(八束澄子著  
ポプラ社 2022) ID13845

『マジック・ツリーハウス 50 ヒマラヤ白銀のゴ  
ースト』(メアリー・ホープ・オズボーン著 食  
野雅子訳 KADOKAWA 2022) ID13843

『わたしはスペクトラム』(リビー・スコット&レ  
ベッカ・ウエストコット著 梅津かおり訳 小学  
館 2022) ID13846

『星ぼしでめぐるギリシア神話』(百々佑利子著  
岩波少年文庫 2022) ID13847



コロナが始まって、子どもたちの  
来るのが本当に少なくなって、文  
庫のおばさんたちは、さびしく思  
っていました。

まだ、コロナ感染は終わっていな  
いけど、今年はぜひにと、クリスマス会をやるこ  
とにして、みなさんにお手紙を書きました。

そしたら、何人かのお母さんから、お返事と近  
況を知らせていただきました。実名を出さないで、  
エピソードだけ、みなさんにお知らせすること  
をお許してください。

♡文庫に通い始めたのは、生後7ヶ月でしたが、  
来春、中学生になります。すっかり本離れしたか  
と思いきや、アマゾンで、ニーチェの哲学書や、  
レーニン・マルクスの経済書を注文してくれと、  
言ってくるようになりました。文庫で読みたい本  
が見つかるといいのですが。クリスマス会、楽し  
みにしています。—R君(猫が好きで、猫の本と  
聞いたたら大人の本まで読んでいましたね)

♡(3姉妹のお姉ちゃん)Rは中学生になり、吹  
奏楽部でクラリネットを頑張っています。中のM  
は5年生になり、今もたくさん本を読んでいます。  
学級委員長など、すすんで頑張っています。末っ  
子のNは、幼稚園の年少になり、元気いっぱい走  
りまわっています。久しぶりに皆さんに会えるの  
を楽しみにしています。(Rちゃん、もう中学生?!  
クラリネットですかあ!聴きたいなあ。文庫では  
おとなしかったMちゃんが率先してクラス委員!!  
Nちゃんはまだヨチヨチ赤ちゃんだったのに♡)

♡K子と一緒にいきます。Kは高1になりました。  
中学から始めた剣道の部活で行けないのが残念で  
す。身長は172センチになりました。K子は小学4年。  
おかげで今も2人とも本が大好きで、ヒ  
マさえあれば読んでいます。18日楽しみにして  
います。(K君は創作意欲満々で、小さい時から  
読んだ本に触発されていつも何か作ってきてくれ  
ました。Kちゃんは、静かだけど存在感がありま  
したね)

♡最近遊んでいるゲームは「スマッシュブラザーズ」  
で、家族みんなで遊べるので、一緒に楽しんで  
います。成長を感じることは、お手伝いをして  
くれること。我が家では、1回10円もらえるこ  
ともあり、すすんでやってくれてとても助かって  
います。クリスマス会楽しみです。(K君と弟のK  
君、最近会員になってくれました♡)

～他に残念ながら用事で不参加の人も、近況を  
知らせてくれました。

◇予約制になってしまったこともあり、遠のいて  
いましたが、年が明けたらまた通いたいと思っ  
ています:W兄弟から。

◇夏休みの宿題でMOA美術館・伊東市児童作品  
展で、教育長賞を受賞しました。(すごいね、さ  
すがSちゃん。もう小学生なのね♡)

◇K君:おばあちゃまからいただきました。Kは、  
夏季は池小学校でお世話になっていましたが、9  
月にアメリカに戻り、なんと中学2年になり、子  
供扱いの日本と一人前の扱いをする米国との違  
いを感じています。中学生なので、冬休みが短  
く、今年はこの22日から1月4日までの滞在で、  
残念ながら出席できません。(日本とアメリカで  
の生活を上手に暮らしているのですね♡ 夏休みに、  
日にちが合ったらぜひいらしてください)

お返事来るといいなと思いながら、今日文庫  
に来ました。そしたら・・・、お返事、涙が出る  
ほど嬉しかったです。文庫でしか会えない子ども  
さんですが、会うたびに大きく、逞しく、やさ  
しく成長する子どもさんを眺められて、文庫の私  
たちは心から嬉しく思います。そして文庫の中  
で気に入った本と巡り合って欲しいなと思っ  
ています。

スタッフ一同、皆さんと素晴らしいクリスマス  
おはなし会・お楽しみ会にしたいと思います。

クリスマス絵本  
と読みものは、  
別置きしてありま  
す。



## 12月に入る大人の本

## フィクション

- 『掌に眠る舞台』(小川洋子著 集英社 2022) ID18892  
 『光のところにいてね』(一穂ミチ著 文藝春秋 2022) ID18895  
 『教誨』(柚月裕子著 小学館 2022) ID18896  
 『介護者 D』(河崎秋子著 朝日新聞出版 2022) ID18897  
 『方舟』(夕木春央著 講談社 2022) ID18899  
 『レペゼン母』(宇野碧著 講談社 2022) ID18900  
 『太陽諸島』(多和田葉子著 講談社 2022) ID18901  
 『チングス紀 15 子午』(北方謙三著 集英社 2022) ID18898
- 『野原』(ローベルト・ゼーターラー著 浅井晶子訳 新潮社 2022) ID18902  
 『ゴールドフィンチ 3』(ドナ・タート著 岡真知子訳 河出書房新社 2016) ID18903  
 『ゴールドフィンチ 4』 ID18904

## エッセイ ほか

- 『無人島のふたり-120 日以上生きなくちゃ日記』(山本文緒著 新潮社 2022) ID18905  
 『この父ありて-娘たちの歳月』(梯久美子著 文藝春秋 2022) ID18908  
 『手紙、葉を添えて』(辻邦生/水村美苗著 朝日新聞社 1997) ID18909 (古書)  
 『ひとり遊びぞ我はまされる』(川本三郎著 平凡社 2022) ID18918
- 『ターシャ・チューダーの子育て』(セス・チューダー著 食野雅子訳 河出書房新社 2022) ID18907

『死者を巡る「想い」の歴史』(山本幸司著 岩波書店 2022) ID18911

## アート

- 『Contact act-原田マハの名画鑑賞術』(原田マハ著 幻冬舎 2022) ID18912  
 『遅れた花-私の写真ノート』(酒井忠康著 クレヴィス) ID18913  
 『平櫛田中回顧談』(平櫛田中/本間正義著 中央公論新社 2022) ID18914  
 『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』(川内有緒著 集英社インターナショナル 2022) ID18917

## 歴史

- 『天路の旅人』(沢木耕太郎著 新潮社 2022) ID18906  
 『パールハーバーの目撃者-子どもたちの 1941 年 12 月 7 日』(カトリーナ・ルクシャフスキー著 山本みづほ訳 水曜社 2022) ID18910

## 新書

- 『旧約聖書がわかる本-〈対話〉でひもとくその世界』(並木浩一/奥泉光著 河出新書 2022) ID18915  
 『人類の起源』(篠田謙一著 中公新書 2022) ID18916



## あんな本・こんな本

- 『野原』。人生の暮れ方に向かう身だからか、静かな筆致の語りにスーッと入り込んだ、と思っただら、静かに不気味さが漂いはじめ・・・。  
 ○子どもの本『たぶんみんなは知らないこと』は、大きな障害を抱えている主人公たちとその周りの人の世界を、手探りでひっかかりながら、少し知ったという感じ。作者は、特別支援学校の先生。大人の人にも読んでほしいです。  
 ○『光のところにいてね』は、新聞広告で気になって入れてみました。どなたか読んだら感想を!  
 ○山本文緒ファンなら読みたいと思って入れた『無人島のふたり-120 日以上生きなくちゃ日記』

## 徒然なるままに(続き)・・・(さ・ら)

- ★12月2日~4日は、京都。目的は、テレビで見た京北山・花背の一軒宿。摘草料理とジビエ料理。宿のつくり、風情。川を背に、夜は月、翌朝初霜が降りて。私はまずまず、連れ合いは✕(全くー!!)。郷に行ったら郷に従え。そうすると愉しみも良さも味わえる。  
 ★3日昼、私は紅葉の名残りを見に、永観堂、南禅寺、そして平安神宮へ歩く。京都の紅葉は何度か。初めて紅葉のハッとする美しさを感じたのは南禅寺だったが、今回は永観堂が見事だった。(その時、連れ合いは何と、伏見にあるプールへ泳ぎに!!)。・・・表紙の写真は京都のIさん(私の拙著つながりの)から。私も何枚も撮ったが、送って下すった彼女のが素晴らしかったのでお借りした。・・・  
 ★3日夜は、ぐーっとお安いビジネスホテル。烏丸五条、お目当ては居酒屋。これはグー。特にお揚げ。お豆腐は食べても、薄揚げ、厚揚げ嫌いの私。でも、ドーナツ型に揚げたこれは、たっぷりの大根おろしを添えて超美味。連れ合い大満足。  
 ★京都のちょい旅は、平安神宮通りにある京都府立図書館の蔵かの中に読書に勤しむ人々の柔らかな雰囲気と、京都市京セラ美術館の立派な佇まい(今度来るときは中に入ろう)が、よかったです。